福が満開おもてなし隊 活動紹介

福が満開、福のしま。

平成27年4月～6月に大型観光キャンペーン「ふくしまデスティネーションキャンペーン（DC）」が開催されます。福島を訪れた方々を笑顔でおもてなしし、DCを盛り上げるために活動する皆さんをご紹介します。

ふるさとガイドゆかりの会

棚倉町に歴史あり……。会が発足して約25年、21人の会員が町の歴史を語り継ぎ、訪れた人々に史跡の案内などを行っている。また、観光ガイドとして町の魅力を伝える役割も担っている。

左から　会員　藁谷（わらがい） 鋭（さとし）さん
　　会長　衣山（きぬやま） 武秀（たけひで）さん
　　幹事　秋元（あきもと） 八重子（やえこ）さん

小学生にも分かりやすい案内を

「歴史が苦手な方に、いかに分かりやすく伝え興味を持っていただくかが課題です。また、歴史や史跡だけではなく、町の観光を支える魅力あるスポットを盛り込んだルートの開発なども行っています」と話す会長の衣山武秀さん。

観光客へのおもてなしが自分たちの大きなヒントに

案内をすると、観光客の動向や反応からさまざまな気づきが生まれ、課題や解決策が見えてくるそうです。「棚倉町を知ってもらい、『また行ってみたい』と喜んでもらえるように丁寧なガイドを心がけています」と町の活性に向けての意気込みが伺えました。

棚倉町シンボルキャラクター たなちゃんと

あなたも今日から「おもてなし隊」！ 隊員大募集！

福島の良さを伝え、盛り上げたい方なら、どなたでもOK!
あなたも「おもてなし缶バッジ」をつけて、お客さまを“おもてなし”しませんか？

対　象　県内に所在する団体・グループ・個人など

問　県庁観光交流課　☎024（521）7398　福が満開おもてなし隊　検索

あなたも誌面に登場してみませんか？

Check!

誌面に登場してみたい「おもてなし隊」の方を募集しています。
皆さんの心のこもったおもてなしと心意気を教えてください。

応募方法　官製はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号・活動内容をご記入の上、下の宛先までご応募ください。採用の方には、後日ご連絡の上、撮影にお伺いさせていただきます。

郵送先　〒960-8670 県庁 広報課「福が満開おもてなし隊」係
お預かりした個人情報は、記事や取材などにのみ使用いたします。

Eメール・ファクスもOK! 11ページをご覧ください。

ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.

緊張しながらプレゼンに挑む

ミラクルフルーツに土湯の復興を託す

温泉観光まちづくり協議会の皆さんの前でプレゼンをしたんですが、とっても緊張しました。私たち高校生の提案なんて受け入れてもらえるのかな……って、本当はみんな不安でした」

受け継いでいく復興への思い

緊張のプレゼンから9カ月後、土湯温泉まちづくり協議会からビニールハウスができたと連絡が入りました。「その時初めて私たちの提案が受け入れられたことを知りました。信じられないぐらいびっくりしましたが、とっても嬉しかったです」

すぐに試験栽培も始まりました。「まだ出荷とまではいきませんが、実用化を目指して着々と進んでいます。このプロジェクトは後輩に引き継ぎますが、これからも土湯を応援していくつもりです。私は将来は教員になって、震災で体験したことや感じたこと、復興のためにできることを子どもたちに伝えたいと思っています」

現在、土湯温泉では、高校生のアイデアをきっかけに土湯ならではの魅力をつくるため、さまざまな動きが始まっています。土湯産のミラクルフルーツが店頭に並ぶ日も近いかもしれません。

読者からのお便り　「福が満開おもてなし隊」は、DC1年前ということで、タイムリーな企画。県民が県内各地の魅力を再確認するのに有意義だと思います。（本宮市 50代 男性）

福島の力になりたい！高校生の思いが土湯を救う

福島高校 土湯魅力創造プロジェクトチーム

ふくしまはじめ人（びと）

File No.02

福島県立福島高等学校3年
大束（おおつか） 彩乃（あやの）さん

＜プロフィール＞
震災による被害を目の当たりにし、先生の「高校生が大人を動かそう！」という言葉で「土湯魅力創造プロジェクト」への参加を決意。勉強、部活に励みながらプロジェクトの一員として活動している。

「なんとかしなきゃ」歩いてつかんだヒント

「以前から福島のためになんとかしなきゃと考えていたんです」

笑顔が似合う大束さん。普通の高校生たちが未来の希望となるプロジェクトを発案し、大人たちを動かしました。大束さんが参加している「土湯魅力創造プロジェクト」のアイデアが土湯温泉まちづくり協議会に採用されたのです。

「1年生の夏に相馬や土湯温泉に被災地見学に行き、観光客が激減していることを知りました。地元の方の話を聞くうちに『なんとかしたい！』という思いがさらに強まり、『アイデアを考えて土湯に提案しよう！』と決意しました」

土湯温泉に「新しい魅力」を

土湯温泉に新しい魅力を創造して賑わいを取り戻すため、プロジェクトに参加し、調査を開始。土湯温泉にバイナリ発電（地熱発電方式）が導入されると知り、「地熱を使って土湯にしかない価値を創り出そう」と、プロジェクトの5人の生徒たちで何度も案を出し合いました。

バイナリ発電を行う16号源泉

「なかなか意見がまとまらなくて……。土湯ならではという案が出てこなかったんです」と大束さんは当時を振り返ります。

悩みぬいてひらめいた「温泉」と「フルーツ」の組み合わせ

案がまとまったのは、「福島ならでは」の魅力を組み合わせてみた時でした。

「福島といえばフルーツ。南国で栽培されている『ミラクルフルーツ』は、食べると酸味が甘味に変わる不思議な特性があります。あまり市場に出回っていないミラクルフルーツなら商品価値が高く話題になりやすいし、土湯温泉の地熱を利用すれば熱帯植物の栽培も可能です。福島と南国フルーツという意外性も面白く、福島の魅力を深められるのでは？と意見がまとまりました」

さらに、ミラクルフルーツを使った商品の開発など、土湯の活性化につながる具体的な案も考えました。

「昨年の1月に土湯温泉観光協会と土湯

酸味を甘味に変えるミラクルフルーツ

「ふくしまはじめ人」を読み、こういうボランティアもあるのだと知り、「私にもできる事があったら、参加してみたい」と思いました。（福島市 30代 女性）